



東大寺 212 世別當 筒井寛秀 筆

No.41

2017. 6. 1

【発行】

奈良県肢体不自由児者父母の会連合会

<http://www.narakenshiren.gr.jp>

【発行責任者】 松本 倫子

【メールアドレス】

[honbu@narakenshiren.gr.jp](mailto:honbu@narakenshiren.gr.jp)

新年度を迎えて

会長 松本 倫子

美しい新緑の季節が巡り、私たちも新年度を迎えました。多くの皆様のご支援のおかげで県肢連の活動や事業ができておりますことを、心から感謝申し上げます。

来年、県肢連は創立五十周年を迎えます。昨年度、五十周年記念事業実行委員会を立ち上げ、記念誌の作成にとりかかっています。この機会に、きちんと過去を踏まえて、現状をとらえ、次世代に引き継ぎたいと考えました。地域父母の会の現状、子供達が行っている福祉サービス現場の今、会員が関わって設立された事業所の当初の親子の想いと現状、医療の必要な現場など各方面の皆様が、ご多忙のなか、大変貴重な温かい原稿をお寄せくださっております。厚く御礼申し上げます。

県肢連の歩み五十年の年譜は、国と県の福祉制度の流れと対比しながら作成し、ほぼ完成いたしました。特に県肢連の独自の事業活動である、チャリティー墨書展、研修・事業・本人部会、福祉の店わかくさ、心理リハビリテーション・静的弛緩誘導法の訓練学習会

には特集を組みました。独自で実施した地域生活支援事業の各市町村の取組状況に現在の状況も聞き取りして加え、添付資料したいと思います。

現在記念誌の作成途中ですが、親たちの思いである、障害児者が普通に暮らせるように生活向上を求めていることがわかってきました。生きづらさがどうすれば解消されるのかに向かっている親たちの地道な歩みでもあります。これらを広く知っていただいて、父母の会がなぜ必要なのかを考えていただく資料になればよいなあと思っています。

今、どの当事者団体でも、会員の高齢化と若い人たちの加入が少くないということが課題となっております。奈良県肢連は本部役員に若いお母さんが頑張ってくれておりますので、全肢連の中では若返りができていると思われていますが、養護学校在校生の保護者の加入は大変少ないです。卒業後の長い人生は地域で生きていくことになります。市町村の福祉行政が核にな

り、サービスの支給量や質が決まっています。私たちの子供の障害からくる生きづらさについては誰も言うてくれません。親たちと本人が声を出して、社会の共感を得るしかないのです。その時、父母の会という組織が必要で個人では行政や政治を動かすことはできません。

県肢連では障害者トイレに成人のおむつ交換のできるベッドの設置を訴え続けています。昨年度は県障害福祉課とともに父母の会が要望書を携えて要請したところ、市町村行政、国道事務所が理解を示してくださり、設置される事例が出てきました。今後は県条例で設置が義務付けされるまで私たちの運動は必要なのでしょう。

第十四回チャリティー墨書展の開催が一月後に迫ってきました。各寺院のご揮毫もいただいております。成功をめざし、皆様とともに頑張っていきたいと思っております。今年一年変わらませぬご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。



父母の会に寄せて

生駒市

市長 小柴 雅史

雨に生える紫陽花の花も美しく爽やかな季節となりました。

平素は、本市の障がい福祉行政の推進につきまして、ご理解、ご支援を賜りまして厚くお礼申し上げます。

さて、昨年度、「障害者差別解消法」が施行され、県におきましても「奈良県障害のある人もない人もともに暮らしやすい社会づくり条例」が施行されました。

本市といたしましても、全ての市民が障がい者に対して理解を深めることが重要であると考え、障がい者理解や啓発のため、「まほろばあいサポーター」の養成や、「ヘルプカード」の配布、「啓発用DVD」や「いこまお出かけトイレマップ」の作成、講演会の開催など様々な取り組みを行ってまいりました。

ハード面では、障がいを持つ方の声や、実際に現場を共に回りながら問題となる箇所を洗い出した上で、市内の生涯学習施設など公共施設のトイレの洋式化や公園施設

設の段差解消、手すりの設置などのバリアフリー化にも取り組んでいるところではあります。

また、今年度から、障がいを持つ方が住み慣れた地域で安心して暮らすことが出来るようグループホームの設置促進のための支援や、障がい者の高齢化や重度化、「親亡き後」の問題に対応するため、重度障がい者が地域生活に必要な緊急的支援が受けられるよう「地域生活支援拠点」の整備についても進めているところです。

このような様々な障がい福祉の施策を計画的に実施するため、今年度は、「第五期生駒市障がい者福祉計画」の策定を行います。計画策定に際し、障がい当事者や障がい者団体、福祉関係者、地域団体の皆様のご意見をお伺いし、より本市の実態に即した計画になるよう進めてまいります。

そして、「市民の皆様が安心して楽しく暮らし活躍できるまちづくり」を目指して取り組んでまいります。

今後とも引き続き、本市の障がい福祉行政にご理解、ご協力をお願いするとともに、奈良県肢体不自由児者父母の会連合会のますますの発展と会員の皆様のご多幸を祈念いたしまして挨拶の言葉にかえさせていただきます。

子供たちの未来のために

奈良県立奈良養護学校

校長 吉田 清徳



吹く風も次第に夏めいて、初夏の訪れを感じる季節になってまいりました。

平素は、本校教育の推進に温かいご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。本年四月より本校校長を拝命いたしました。学校は新年度を迎えはや二か月が経とうとしています。今年度は、本校、光明園教室、バルツァ・ゴードル教室、バンビ教室を合わせ二十九名の新入生を迎えることができ、本校九十八名、バルツァ・ゴードル教室四名、バンビ教室四名、光明園教室二十二名の合計一二十八名の児童生徒が在籍しています。

子どもたちは、新しい学年や学部で気持ちを新たに学習に取り組んでいるところです。日々の活動において、子どもたちが一杯学習に取り組み、明るく元気に

学校生活を送っていることに感謝しているところです。それらの活動の中で見せる子どもたち一人ひとりの笑顔は保護者の皆様方や教員にとってかけがえのない喜びであり、学校の宝ともいえます。学校は子どもたちのこの笑顔を守っていくために努力を続けていく所存ですので、よろしくお願い申し上げます。

さて、昨年度より整肢園分校では、インクルーシブ教育の理念に基づき、「多様な学びの場」を保障するという観点から、本校と分校に分かれての教育が始まりましたが、整肢園分校は昨年度をもって閉校となり、今年度から新たに光明園教室としてスタートしました。本校では、集団での学びを通して、社会で生きていく力を効果的に育てることができ、光明園教室やバンビ、バルツァ・ゴードル教室では、安心して療育を受けることができる素晴らしい環境を基盤として教育を実践することができま

きます。こうしたそれぞれの特長を生かしながら引き続き、子どもたちの笑顔が輝くための教育を探っていきたく思います。

近年、肢体不自由教育においては、児童生徒の障害の重度・重複化、多様化が進み、併せて医療的

ケアが必要な児童生徒も増加の傾向にあります。法改正もあり、学校としましても新たな仕組みで、医療的ケアを進めておりますが、まだまだ十分な体制とはいえませんが、今後、この制度がより一層充実すること、学校だけでなく地域での在宅介護や医療的ケアの必要な児童生徒の居場所が増えることを期待しています。本年度の医療的ケア対象の子どもたちは、昨年度より三名増え、三十一名となりました。子どもたちの命と真摯に向き合い、校内で医療的ケアを安全に一層推進していくことが、

学校の重要な課題の一つとなっております。障害のある子どもたちにも等しく教育を保障していくために、医療との連携を一層深めていく必要性を感じているところです。

本校の子どもたちは、生まれてから今日までの子どもも一言では語り尽くせないそれぞれの歴史を持つています。そして今も命と向き合いながら学習に励み、日々精一杯生きていくひたむきな姿と純真な瞳から受ける感動はまさに命そのものです。

こうしたかけがえない命だからこそ、子どもたちには、未来志向で、頑張ってほしいと願っています。常に目を外に向け、様々な

ことに積極的に体験し、自分の可能性を広げてほしいと願っています。子どもたちが「学校に来て楽しい」「今日も学校に来てよかった」と思えるような、まさに子どもたちが内面から輝きを放つような教育を創造していく学校になるように努力をしていきたいと思えます。

本校は、以前より障害のある子どもたちが生きていく上での必要な力を獲得するための活動で、いわば特別支援教育の根幹というべき自立活動の充実に取り組んできました。そして、取り組んだ成果を授業づくりに反映させることで、子どもたちの確かな学びを育む授業づくりを行っています。特に子どもたちにとって楽しく学習しやすい新たな教材開発を行う中で、大学と連携してタブレットパソコンや大型モニター等のICT (Information and Communication Technology 情報通信技術) を活用した教材ソフトの開発を行い、子どもたちに自分に合った様々な学びの方法を提供する取組を進めているところです。このような取組を推進していくことで、子どもたちの学習の機会がより広がり、一人ひとりの持つ能力を最大限引き出すことで、卒業後、地域で豊かに暮らしていく力に発展していく

ことを願っています。

そして、子どもたちの素晴らしい未来のために、保護者のもとより県肢体不自由児者父母の会連合会の皆様と共に手を取り合って精進していく所存ですので、今後とも、本校教育に一層のご支援をお願い申し上げます。

#### 養護学校PTAより



奈良養護学校

前PTA会長 牟礼 こなみ

平成二十八年度は、全校児童一三名、肢体不自由生徒数一〇六名、という出発でした。その中から本部役員六名、進路対策部七名、保健部七名、広報部七名の役員と会員の皆さんと共に様々な活動に取り組みしました。

校内では、ならNOW発行、ボランティアカット、親睦会、手作り品製作、「子どもたちの将来をお話する会」、食育研修、わたぼうしコンサートなど、を行いました。

校外では、地域社会への啓発活動として、PTAバザーをイオン大和郡山店、ビッグエクストラ大

安寺店のご協力で開催する事が出来ました。店頭に立ち、最初は恥ずかしいながらも思い切って「奈良養護学校です！バザーを開催いたしております！是非ご覧ください！」などと声を張り上げています。「この学校はどんな学校なの？」「どこにあるの？何人位通ってはるの？」という声をかけて下さる方もおられ、一生懸命お話をさせて頂きました。また、イオン高の原店での「幸せの黄色いレシートキヤンペーン」でも役員が交代で参加し、同様に地域の皆様と言葉を交わすことが出来ました。こうした本校のPTA活動の充実は、ずっと長く先輩方が続けて来られた活動のお陰であり、これを途切れる事なく次の世代へとバトンを渡していけるよう、頑張っていきたいと思えます。

近年では、PTAの入会や活動の是非についての新聞記事特集なども見かけます。様々な議論が交わされる中ですが、特別支援学校のそれについては、三十年代から順次先行施行される新学習指導要領に盛り込まれる「インクルーシブ教育の構築」のあり方など、全国の保護者が声を合わせて国の中央省庁へ届けるべき事が沢山あります。後に続く子どもたちの為に

も、その時その時代の保護者たちが「道」を踏み固めて歩くために小さな力を合わせて活動を続けていきたいと思っております。

明日香養護学校

前PTA会長 當麻 佐和

平成二十八年度の明日香養護学校のPTA活動は、例年通り広報部主体の年二回の広報誌発行と進路部主体の進路学習会(年三回)動作の学習夏期集中学習会、進路現地研修、部員研修を行いました。

全体では、七月と九月にイオンモール樺原で「幸せの黄色いレシートキャンペーン」の店頭活動、十月の清掃奉仕作業、十一月のたちばな祭でのバザーや模擬店を行いました。たくさんの方々にお越しいただきご協力いただきましたことに、この場をお借りしてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

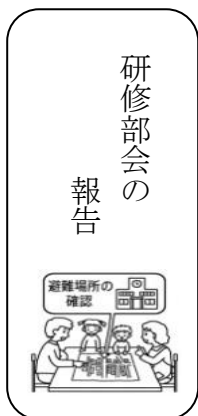
そして、熊本地震で被災された方々へ、義援金として支援させていただくことが最良と考え、皆様にはご協力いただきました。

五月に明日香養護学校創立五十周年を迎え、式典を開催しました。その際に記念式典として、文化鑑賞会を行いました。同窓会では「わ

たぼうしコンサート」も行われ、どちらも盛況で楽しい時間を過ごすことができました。

私達PTAでは、子供たちが、楽しく健やかに学校生活を過ごせるよう活動を行っています。

二十八年度も、学校の先生方をはじめ地域の皆様のご協力を得ながら、PTA活動を進めていくことを深く感謝申し上げます。子供たちがよりよい学校生活を送れますよう、今後ともよろしくお願いたします。



本部役員 横谷 京子

平成二十八年度の研修部会は三回の部会と社会見学事業を研修として行いました。

\*四月十四日 「困っていることを話し合ひましょう」

新旧の研修部員が参加して福祉サービス等についてそれぞれの意見を出し合ひました。

移動支援では、自宅から自宅までの利用しかできなかつたり、通勤通所にも使えないなどニーズに

合った使い方が出来ないという意見が多くありました。また、施設入所者も移動支援を使える地域もありませんが外出外泊に他の地域も使えるようにして欲しいと要望がありました。さらに入院時の付き添いにヘルパーを利用できるサービスが欲しいとの声もあります。

ました。ショートについては、子供のことを知ってもらう為にも日頃から利用することが必要です。しかし、事業所によっては利用が多く予約が取りにくいところもあります。親が入院するなど緊急時には満床でも譲ってもらえるような関係づくりが求められます。

\*七月五日

「社会見学 防災研修」

「障害者総合支援法改正について」平成二十五年に施行された障害者総合支援法の三年後の見直しの検討がされてきましたが、その改正案が三月国会に提出されました。新たなサービスとして自立生活援助・就労定着支援の創設や重度訪問介護の訪問先の拡大、高齢障害者の介護保険サービスの円滑な利用など改正案の概要が全肢連情報誌「わ」に掲載してあります。その内容を読み合わせしました。その後、二グループに分かれ、「親が子供を見られなくなったら」「ショートステイについて、各施設の現状」を話し合ひました。

昨年続き、防災研修として研修部員だけではなく会員の皆様にも参加していただき、淡路島の北淡震災記念公園・野島断層保存館を見学してきました。野島断層を当時のまま保存してあり大きな断層のずれは地震のすさまじさを感じたものでした。また、語り部さんのお話も伺いましたが、当時役場にお勤めの方でしたので、避難所を運営する立場からの貴重なお話や、地震に備える大切さをお聞きしました。

\*四月十四日

「防災研修と近畿福祉大会を終えて」

入所していても通院や外泊時に親が体力的に出来なくなつたときどうするか心配があります。子供のことを父母どちらかだけではなくマニュアルを作つて伝えておくことも必要で、相談支援の充実が課題であり、相談員との日頃からのつながりが大切との意見が出

北淡震災記念公園見学を踏まえて、防災についての各地域行政の取り組みや、個人の日頃からの防災の意識や対策などを話し合ひました。

要援護者リストを作成している地域も多くあり、そこには必ず

載せてもらうことが大切です。自治会の避難訓練に積極的に参加する必要があるとの思いは皆同じですが、実際に子どもを連れては躊躇してしまい参加していない人が多いようです。自助・共助・公助と言いますが、まず最初に頼りになるのは「近助」。隣近所との付き合いが大切との意見で一致しました。

部会等で学んだことを各地域に持ち帰り情報を共有してもらう為に、理事と研修部員の二名ずつで出席してもらい部会を運営しています。部会ではKJ法を取り入れ、自分の意見を紙片一枚に一つずつ書き、それを同じ意見や項目ごとに分けて話を進めていきます。二グループに分かれて少人数で話し合っている、全員が発言しやすく活発な話し合いとなっています。

近畿福祉大会は特に多くの情報が得られる大会です。とくに研修部員の方には積極的な参加をお願いしています。研修部会で話し合われた事と共に地域に持ち帰り、地域での勉強会や活動に役立てていただきたいと思います。

また、各地域からも課題などを持ち寄って部会の議題に挙げていただき、皆で考えていけたらと思います。

今年の全国大会・近畿大会は京都での開催となります。介護の大部分を担っている母親に焦点を当てた内容になるそうです。県肢連でも親無き後の為に今できることについて講演を予定しています。今後も、その折々のニーズや課題に添った研修を行いたいと思っています。子ども達の代弁者として、会員一人ひとりが積極的に参加して知識を深めて頂きたいと思えます。多くの皆様の参加をお願ひ致します。

### 私たちの活動が実って

「多目的トイレに大人のオムツ交換ができる大人用ベッドの設置を求めて」



本部役員 前田 妙子

奈良県肢連の活動のひとつとして、奈良県障害者福祉連合協議会に所属し、県内の三障害十二の障害者団体と力を合わせて「障害があっても安心して地域や施設で皆と同じように安心して生活できる」ように県政策への要望とそれらを可能にする予算充実の要望書を毎年奈良県に提出しています。

私たちの会から永年にわたり要望してきた事項のひとつに「多目的トイレに大人のおむつ交換ができる大人用ベッドの設置」があります。身体が大きくなった成人の重度の障害者が外出時に一番困ることはおむつ交換ができる所がほとんどないことです。そのため、長時間おむつ交換できないことも多く、時には障害者トイレの床にマットを敷いたり、人前でバスタオル等を使い目隠しをしながらかおむつ交換したりします。

長きにわたり要望してきた甲斐もあり昨年は、県障害福祉課の働きかけで、県立橿原公苑の体育館と県庁内の多目的トイレに念願の大人用の折りたたみベッドを設置して頂きました。また、県障害福祉課と共に国道事務所にかがい、京奈和自動車道御所南サービスエリア内の多目的トイレにも設置して頂けることになりました。そのほか、県リハビリセンター内にもおむつ交換できる場所を作って頂きました。また、地域父母の会からも市町村行政へ要望書を提出し、設置される事例が出てきました。天理市は、駅前再開発の多目的トイレに設置されましたし、橿原市の新市庁舎、桜井市の新市庁舎、桜井市社会福祉協議会の建物内、田原本町の「道の駅」唐古、

葛城市「道の駅」かつらぎ、などにも設置される予定です。大和高田市でも、ゆうゆうセンターのトイレに長椅子が設置され、市民交流センター コスモプラザや新市庁舎に設置を要望しています。

このように、昨年あたりから設置や改善が進み始めた背景には、平成二十八年四月障害者差別解消法が施行されたことがあるように思います。合理的配慮の提供がより一層進み、障害者の生きづらさの軽減が進むことを期待します。

また毎年、県への要望書に記載し続けていたことが行政を動かす大きな原動力になることが今回よくわかりました。文字に起こし書類で残すことが大事なのです。

多目的トイレに、ベビーのベッドやオストメイトのシャワーの設置は条例で定められていますが、大人のおむつ交換のできるベッドの設置は条例にはありません。一日も早く条例に定められるよう引き続き要望していかなければなりません。

県への要望の内容は大人用ベッドの設置だけでなく、私たちの子供たちがより豊かに地域で安心して暮らしていけるよう、医療、就労、短期入所、日中活動、災害時の対応、人材確保と育成等々多岐にわたります。

これからも研修部会や理事会で、自分の子どもだけでなく、皆の子どもの生きづらさを共有し理解し、地域の情報も共有しながら話し合いを重ねていきたいと思えます。話し合いからあがったニーズはきちんと関係機関に届け、子どもたちの生きづらさを軽減に繋げていきましょう。

### 本人部会この一年

本部役員 山口 裕美

今年度の本人部会は、今一度、全体を見直し、一人でも多くの人々が気軽に集まり憩えるよう「本人たちの交流の場」(仮称)としてリニューアルし、みんなで育てていく会にしようということで始めました。

第一回は七月に、電車でも車でも集まりやすいよう、NPO法人わかくさもえぎをお借りして開催しました。今回は親御さんの送迎もOKとし、本人部会の様子を少しだけ覗いて頂きました。

みんなで集まって楽しむには？と、役員で考えを巡らし、スイーツ二種を作り、いただくことに。まるでカフェ・スイーツのような

お洒落なバナナケーキとフルーツをトッピングした二層のオレンジパバロアが、ほぼ混ぜるだけで簡単に出来上がりました。みんなの共同作業で場もなごみ、午後からのフリートークも日頃の事、仕事のこと、後輩から先輩への相談など、十五人各々がしつかり話せ、良い雰囲気で盛り上がりました。今回のような会を続けていければと思います。

第二回「本人たちの交流の場」は、九月にカラオケを楽しむ会を開催。駅近でスペースが広く、車椅子トイレがある所というと案外難しく、会場を決めるのに一苦労でした。何とかレインボーワールド糧原店(新ノ口駅下車五〇〇m)にたどり着きましたが、計画してみないとわからないものですね。本人さんたちは、カラオケが好きな人・得意な人が多く、時間いっぱい楽しんだようです。次回は県北部寄りでの希望もありました。

十一月には、日帰りバス旅行(県費補助金・全肢連さわかB申請・共同募金助成金)を計画。たつての希望のあった、おかげ横丁と伊勢神宮へ出かけました。

だんだん外出しづらくなってきたり、なかなか遠出をすることがないという人もあり、楽しみにしてくれていたようです。途中、「伊

勢かぐらはリゾート」でいつもより豪華なお食事を頂き、目的地では買い物や和太鼓の実演を楽しんだり、参拝に向いたり、大勢の観光客で賑わう中を思い思いに過ぎました。参拝するには、砂利道や石段は避けられず、大変な面もありましたが、太いタイヤの電動車椅子を無料でレンタルでき、砂利道に対応されていました。

第四回は事務局で、一年間のまとめとして、ざっくりばらんに話す会を行いました。本人部会は、役員さんが休日に集まり、計画を立ててくれているのですが、参加人数が大抵十人前後と少し寂しく思うことから、今後の本人部会について聞いてみました。皆さん、次の企画を楽しみにしてくれていて、困っている事を相談できるし、仲間とのつながりを感じているという事で、最初に決めたように、今後みんなで育てていってほしいと思いました。

役員さんも新たに谷岡君が加わってくれたので、また違った味を出してくれるものと期待しています。現役高校生も若い会員さんも昨年から参加してくれています。自分の周りの友達も誘って参加しますと頼もしい言葉も聞きました。



### 訓練部会 活動報告

仔鹿会

会長 太田 圭子

平成二十八年度も沢山の皆様のおかげで支援のもと、毎月の例会、六月のミニミニキャンプ、第四十七回奈良心理リハビリテーション療育キャンプ、第四十二回心理リハビリテーション全国大会(山形)と一年間の活動を無事に終えることができました。

会の大きな柱となる夏の療育キャンプは、総合指導に福岡県の「しのみ学園」から昇地勝人先生、キャンプ長に毛利孝先生をお迎えして八月十七日から二十三日まで宇陀市の椿寿荘で行いました。仕事を長く休めない社会人トレーニの参加希望があり、前年度初の試みで行われた三泊四日の日程を今回も実施することができました。参加して下さるトレーナーの先生方との日程の兼ね合いもあり実施が難しい点もありますが、そのような日程があれば体力的に不安を抱えているトレーニーにとっても参加を考えるきっかけにもなるかと思えます。今回のキャンプではスパーバイザーに二名、トレ

「ナー」に三名の先生方が資格申請できることとなり、「一度のキャンプでこれだけの人数はなかなかないですよ。」と昇地先生におしゃつていただいたことはとても嬉しいことでした。

寝食をともにしながら集団生活を行うキャンプは参加者にとつて大変なことも多いですが、みんな支えあつてキャンプを作り上げるといふ過程で強い絆が生まれます。最終日の閉会式では誰もみなやりとげたような達成感でいっぱい、の晴れやかない表情を見せてくれました。このような素晴らしいキャンプを開催するにあたり毎年変わらずご支援くださる奈良県をはじめ奈良県教育委員会、特別支援学校、各企業の皆様、県校連の皆様、各個人の皆様に心から感謝申し上げます。

山形で行われた全国大会には先生十三名、保護者三名の総勢十六名で参加しました。明日香養護学校の先生が肢体不自由児における動作法についてキャンプでの取り組みを分科会で発表されました。そして、夏のキャンプで申請資格を得られた先生方の認定式がありました。

新年度が始まり、第四十八回キャンプに向けての準備もそろそろ始まっています。二十九年度も

員皆で力を合わせて活動していきたいと思ひます。本年も仔鹿会の活動にご支援、ご協力をよろしくお願ひいたします。

#### 陽だまり笑顔の会

会長 世良 桂子

陽だまり笑顔の会は、平成二十八年度も多くの先生方に御支援頂き、静的弛緩誘導法を学ぶことが出来ました。

現在の会員数は、二十二家族と先生方の研修生十五名の五十九名で、三ヶ所に分かれて学習会を開いています。

毎月、第二日曜日に奈良市総合福祉センターで、第三日曜日に重症心身障害児学園・病院バルツァ・ゴードルで、第四日曜日にNPO法人「ひかりの森」生活介護事業所「日和」で行われました。

平成二十八年九月二十四日と二十五日に奈良市総合福祉センターで親子集中学習会があり、東京から講師の先生お二人をお迎えしました。静的弛緩誘導法の基礎を教わり、子供の個々の課題に合わせてアドバイスを頂き、親は背中・腰・肩の疲労回復と健康管理の体操をしました。

重症児学園病院バルツァ・ゴードルで、平成二十九年三月二十六日に名古屋から講師の先生方をお招きして親子集中学習会が開かれました。バルツァ入所者、「日和」や「どんぐりの家」の利用者が参加して、身体にふれあひリラックスする体操をすることで、心にふれあうことを学びました。個々の課題に加え、楽器演奏やダンスにも取り組みました。

毎月、一時間かけて遠方から参加されているご家族もあります。参加した方々から、子供の身体の緊張が解れ抱きやすくなったとか整形の検診の時に変形の状態が良くなった、表情が和らぎ手足が温かくなった、側弯の進行を食い止めている、呼吸が深くなった等の嬉しい声が上がっています。

身体の仕組みを学習する事で本人のしんどさが理解でき、本人の気持ちに寄り添いながら関りが出来るようになるかと本人もそれを感じ様々な事を訴えてくれるようになる事があります。今年も支えて頂いている先生方に感謝して親子共々学ばせて頂きたいと思ひます。



アステラス製薬株式会社「フライングスター基金」より  
特定非営利活動法人サポートセンター「はあと」へ  
車椅子送迎車が送られました。(平成28年10月7日)



<フライングスター基金とは>

アステラス製薬では、単に企業は業績を求めだけでなく、同時に社会や自然環境との共生を図ることが、これからの企業の姿であるという考え方にに基づき、社会貢献活動の一環として『マッチングギフト』(社員の基金と同額を会社が上乗せ)方式で行われています。

第50回全国肢体不自由児者父母の会連合会全国大会  
第52回近畿肢体不自由児者福祉大会京都大会

テーマ

「住み慣れた地域で、共生社会の実現！」  
～誰もが排除されることのない  
全員参加型の社会へ～

\*講演 「障害のある人の母親という経験」  
講師 上野千鶴子 氏  
認定NPO法人ウイメンズアクションネットワーク理事長  
東京大学名誉教授



と き：平成29年9月8日(金)～9日(土)  
ところ： 8日(金) リーガロイヤルホテル京都  
(情報交換会)  
9日(土) 京都テルサ

第14回南都諸大寺

チャリティー墨書展開催

と き：平成29年7月1日(土)～2日(日)  
ところ：奈良県文化会館 B展示室

南都諸大寺のご高僧の皆様方が障害児者の育成と会活動の支援という開催趣旨に賛同してご揮毫下さっています。

奈良まほろば館

第5回チャリティー書画展



と き：平成29年12月9日(土)～10日(日)  
ところ：奈良まほろば館(東京日本橋)

親子交流事業

心魂プロジェクトさんの贈り物  
と き：平成29年12月1日(金)  
ところ：奈良ロイヤルホテル

\*劇団四季、宝塚歌劇団で活躍されていたアーティストの方々が、子供達とふれあいながら歌やダンスを披露して下さいます。



父母の会賛助会員

ご加入のお願い

奈良県肢連は、まもなく五十周年を迎えます。この間、障害福祉の向上に向けて活動してまいりました。これからも、会員間の親睦を深めることを大切にしながら、更なる発展が出来ますよう取り組んでまいります。ご賛同を賜り、賛助会員へのご加入をお願い申し上げます。

\*年会費1,000円  
(何口でも結構でございます)

平成29年度近畿ブロック

地域指導者育成セミナー

テーマ

肢体不自由児者に対する合理的配慮に基づく「防災、減災の取り組み②」

と き：11月4日(土)～5日(日)  
ところ：和歌山ビッグ愛



編集後記

梅雨入りを前に、皇室から、さわやかなお一人のおめでたいニュースが流れ、晴れやかな気持ちになります。今回も皆様より、お忙しい中ご寄稿いただきありがとうございます。行政のお力添えや多くの方々との温かいご支援に感謝申し上げます。二年に一回のチャリティー墨書展開催に向け、会員みんなで力を合わせ、子供たちの為にかんばりましょう。